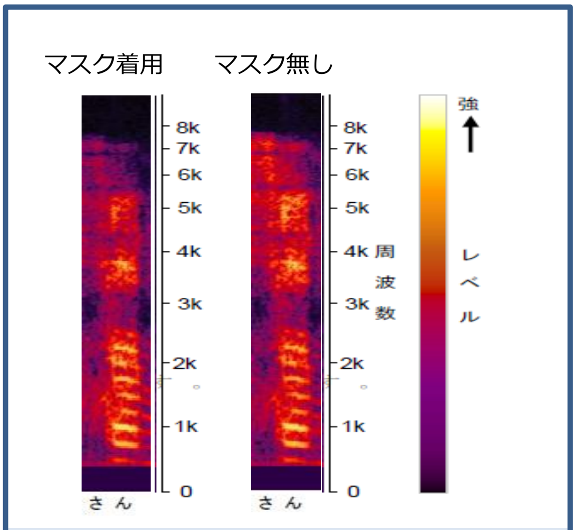
Vol. 17

TOSHIN Hearing NEWS

2020 年 12 月発行

with コロナ時代の補聴器事情　～マスク着用による聞こえの影響とその対策～



「3 百円」と発声した時の「さん」の部分のサウンドスペクトログラム
マスクを着用した場合、非マスク時と比べエネルギーレベルが低いことを示しており、波長の短い高音域(1.5KHz 以上)の成分で影響を受けていることが分ります。

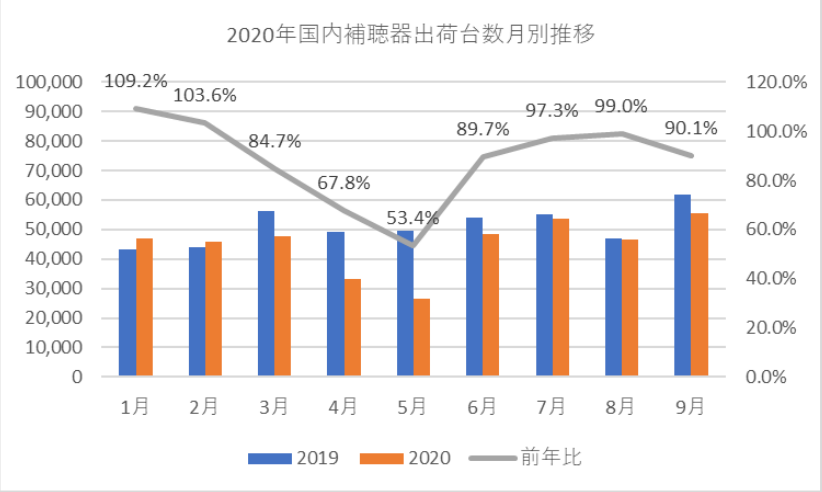
マスク着用による聞こえの影響は、着用しない時に対して、概ね 1500Hz 以上の周波数帯域が減衰します。マスクの種類や着用方法によっても異なりますが、場合によっては音声の明瞭性が低下し、「ことばが聞き取りにくい」ということにつながる可能性があります。片耳装用下での非装用耳側はそれがさらに顕著で、頭部により高域はさらに減衰され、両耳装用の必要性が高まります。型式選択においては耳かけ型補聴器やポケット型補聴器の場合、マスクを着用していると補聴器やマスクの付け外しの際にフックやコードなどがマスクのゴムと干渉して大変煩わしいものです。またマスクの付け外しの際に、耳かけ型補聴器を落としてしまったというケースも発生しています。マスクの着用が常態化している現在、これらの心配が少ない「オーダーメイド耳あな型補聴器」の「両耳装用」が最適と言えます。これらを反映してか、2020 年国内補聴器出荷台数において、形式別構成比では耳あな型が 31.2%となり昨年より 2.9 ポイント増加し、耳かけ型が同じく 2.9 ポイント減少しました。当社においても 4 月から 9 月までのオーダーメイド耳あな型補聴器の販売構成比が昨年より 5 ポイント増加し、両耳装用率も 1.6 ポイント増加しました。

2020 年(1 月～9 月)　国内補聴器出荷台数まとめ

2020 年 1 月の出荷台数は昨今の難聴と認知症関連の啓発効果によるものか、前年比 109.2%と好調な滑り出しでしたが、新型コロナウイルスの脅威の顕在化とともに低下し、5 月には未曾有の減少を記録しました。8 月には前年比 99%と、このまま順調に回復するかに見えましたが、全国の都市部では未だに影響が深刻なようで、9 月の出荷台数は前月より減少しました。累計では 55,608 台減の前年比 87.9%となりました。当社においても、梅田、三宮など都市部の店舗ほど顕著な影響が残っており、郊外では順調に回復してきております。

目次

1　with コロナ時代の補聴器事情
～マスク着用による聞こえの影響～
2　2020 年(1～9 月)国内補聴器出荷台数
3　Japan Hearing Vision
～ライフサイクルに応じた難聴支援～
4　店舗情報
–和歌山店に Cyber ブース設置–



Japan Hearing Vision ～ライフサイクルに応じた難聴者(児)支援を実現するために～

難聴対策推進議員連盟（石原伸晃氏）は、先天性、後天性、加齢性などによる難聴者（児）が、誰一人取り残されず、生き生きとこころ豊かに暮らしやすい社会を実現できるよう、原因別難聴に対しきめ細やかな対策を推進すること等を目的に、2019 年４月に発足した。難聴対策推進議員連盟は、様々な「きこえ」の状態にある人が、暮らしやすい社会の実現を目指して、“Japan Hearing Vision”を取りまとめた。

Japan Hearing Vision は、その目的として、「出産前、新生児期 及び 小児期 における難聴対策」、「成人期、老年期における難聴対策」「ライフサイクル に応じた 難聴対策を支える基盤づくり」を挙げており、特に成人期、老年期における難聴対策として「難聴の早期発見・騒音等による難聴の予防・支援の充実」などが挙げられており、その体制の整備として、「フレイル予防、認知症対策において、難聴対策 をその一環として捉え、取組を推進すること。高齢難聴者の早期診断と補聴器などによる対応を促進するため、高齢者に対する網羅的な簡易聴覚検査を行うシステムを構築すること。また、回復期病院、老健施設等での聴力検査に対する診療報酬などについて検討するなど、高齢難聴者への早期介入体制を構築すること。」となっている。また、補聴器等の適切な活用として、「補聴器購入に当たって、難聴者や家族等が留意すべき点を分かりやすく整理し、注意喚起を行うこと。補聴器指導体制の整備に向けた検討を行うこと。また、補聴器相談医、言語聴覚士、認定補聴器技能者の連携体制を構築すること。加えて、医療機関に言語聴覚士などの専門職を配置し、人工内耳や補聴器を装用した高齢難聴者に対するきこえの心理的な支援、生活指導を充実すること。補聴器購入費用の医療費控除制度の活用を促進するため、補聴器相談医制度の充実を図るとともに、認定補聴器専門店の承認システムの強化や認定補聴器技能者の質的・量的な充実を図ること。難聴者に対する補聴器支援の更なる充実に向け、補聴器の購入に対する助成の拡大について検討すること。」としている。「世界的な難聴対策の気運の高まりを捉え、我が国においても、聞こえなさ・聞こえにくさのある一人ひとりに応じた適切な支援が提供されるよう、ライフサイクル別難聴者(児)支援のあるべき姿の実現を目指し、難聴対策及びそれを支える基盤づくりに向けた総合的・体系的取組を早急に強化していく。」となっている。

経済財政運営と改革の基本方針 2020 （骨太方針 2020）に難聴対策が記載された

Japan Hearing Vision の目的の一つとして掲げられているライフサイクル別難聴者(児)支援のあるべき姿の実現を目指し、経済財政運営と改革の基本方針 2020(骨太方針 2020)に難聴対策が記載された。

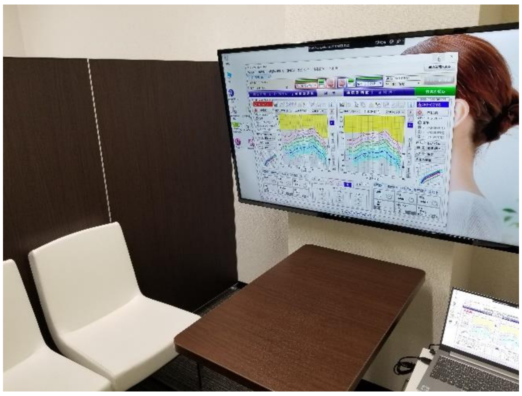
（３）社会的連帯や支え合いの醸成

難聴児の早期支援や高齢者の難聴などに向けた各地域における支援体制の構築を図るなど、ライフサイクルに応じた難聴対策の強化に取り組む。障害者の学びを推進するほか、障害者雇用の促進や、多様な障害特性に応じた職場定着支援、地域における障害者就労支援及び障害者就労施設等からの物品等の調達を着実に推進する。医療提供体制の充実など難病対策に取り組む。

これにより資格制度の厳格化や購入費の助成制度などが整備されることで、我が国の補聴器普及率が他の先進国並みに向上することを期待したい。

店舗情報　　トーシン和歌山店に Cyber ブースが設置されました

和歌山店では７月のリニューアルオープンを機に、すべての接客コーナーに社内で初めて Cyber ブースを設置いたしました。Cyber ブースとは、50 インチモニターをベースに、Web カメラやイヤースコープなどで構成されており、カウンセリング内容や様々な測定結果、補聴器の装着練習風景を映し出すことで、お客様の理解し易さを追求するための構成となっております。弊社では他の店舗でも移転、改装時に続々と導入する予定です。



住　　所：〒640-8232 和歌山市南汀丁１３番地 井上ビル１階
ＴＥＬ：073-423-4133　ＦＡＸ：073-433-3139
営業時間： 午前９時～午後５時（日曜・祝日は休業）

TOSHIN Hearing NEWS 発行元
東神実業株式会社
トーシン・補聴器センター
本　社　：〒550-0002 大阪市西区西本町２－４－７
ＴＥＬ：06(6531)2541　ＦＡＸ：06(6531)3398
ＵＲＬ：https://www.toshin-ha.co.jp/